

SSKP 船橋障害者自立生活センター

2017年1月

うえいぶニュース



〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F TEL: 047-432-4554 / FAX: 047-432-4565
URL: <http://www.cil-funabashi.org/> E-Mail: cil-funabashi@cil-funabashi.org

近く事務所を移転することになります!!

2001年6月から、船橋市の中心にある今の事務所で活動を続けてきました。口の悪い仲間は、重度身障者を中心とするNPO法人が好立地の活動拠点を確保し続けたのは、奇跡以外の何物でもないと言われますが、家賃を滞納することなく今日まで来ました。多くの支援者と多大の犠牲を払って障害者仲間を受け入れ、居を共にして下さったオーナーの花島さんご夫妻の愛情があって、17年近くに及ぶ船橋市本町2丁目花島ビル1階での障害者の自立生活のセンターとしての役割を果たすことができました。おおよそ5万人近くの障害者が、日中活動、ピアカウンセリング（相談支援）、介助確保、就労支援等の場として集い、加えて障害者福祉の充実のために社会への情報発信のために機関誌の発行、バリアフリー化のための活動、差別解消を含む人権擁護等を地道に綺羅星のような障害者運動を展開してきました。

昨夏、花島氏がご逝去され、残されたご夫人も1周忌を終え、ご子息と同居のため転居の運びとなりました。そこで船橋障害者自立生活センターとケア・ネット船橋は移転委員会を設立し、委員は池澤、御郷、杉井、田尾の4氏に委嘱、委員長には池澤さんに引受けて頂き、移転先情報を収集するとともに、移転費用の見積を開始しました。

移転は5月末までに完了させる予定です。皆様からの良き情報提供を歓迎いたします。



（文責：田尾）

代表のぼやき・・・

～ クルマも怖いよ ～



79号でも書きましたが、2015年6月に電動車いすで走行中に交通事故に遭いました。肋骨が三本折れて、我が愛車が全損状態となってしまいました。

それから二度目のお正月が過ぎましたが、未だに相手方との示談交渉の決着がつかないままのこう着状態が続いています。この間、私は家に閉じこもっているわけにもいかず、以前使っていた車いすを引っ張り出して使っていましたが、十数年前の年代物なのであちらこちらにガタが来ていて、細かい修理を繰り返しながらの使用になってしまいました。しかも、ある意味では当然なのですが、「以前使っていた車いす」は行政の認める補装具の枠から外れて、修理の費用などは当面自己負担となります。「当面」というのは、いわゆる代車の費用は本来事故の賠償金に含まれるべきものだから、というのが行政のスタンスです。

一方、私から見れば「加害者」に当たる相手方は、賠償責任保険の特約を使って弁護士を雇い、「完全武装」の構えです。それほど複雑な事故とは思いませんが、ドライバーの立場からすると、自分の免許証に多少なりとも傷がつくことを恐れているのかもしれない。

それにしても、相手が法律の専門家を前面に立ててきている以上、こちらも“無防備”でいるわけにもいきません。そう考えてはみたものの、こちらには法律家を雇うだけのお金がありません。多額の賠償金が得られる見通しでもあれば別ですが、弁護士にとってはちっぽけな事故なので、なかなか相手にしてもらえません。苦肉の策として弁護士会などで実施している「無料相談」に行ってはみたものの、限られた短い時間なので事故の概要を説明するだけで精一杯です。

思い余って「法テラス」という相談機関に電話をすると、「高齢者・障害者のための無料電話法律相談」という機関を紹介され、また電話をかけて概要を話すと、地元の弁護士会の交通事故無料相談を利用するように言われて、結局、振り出しに戻ってしまいました。どうやら、「障害者問題」と「交通事故」で専門の人が違って、両方に対応するのが難しいというか面倒と思われてしまったことが話を複雑にした要因のようです。でも、加害者側は、「障害者に口なし」と言わんばかりの一方的な主張をしていて、どうしても二つの問題が絡むのです。現状は、両者の書類が検察に送られて、刑事上の処分が下されるのを待っている段階ですが、私が検察に出向いて調書に印鑑を押してから半年近くたつのに、まだ最終処分は出ていません。

そうこうするうちに、代車に使っていた車いすがとうとう修理が困難な状態に陥り、事故で全損状態とみなされた車いすをほぼ新調するような値段で修理せざるを得ない状況になりました。費用負担の見通しがなく「当面自己負担」で修理するのは身が縮む思いです。

この問題に決着がついて初めて本当のお正月が来るような気がしています。

市長との対話から

宮尾おさむ

新年の2017年になりました。今から言うと2016年の昨年になりますが、私が住んでいる船橋市の市長松戸徹さんと昨年の秋にお話をする機会がありました。

場所は船橋市役所9階の応接室。そこで二人が向かい合って対話をするという機会に浴したのですが、なぜか途中から議論になり私は松戸さんからこう言われてしまいました。

「今日の宮尾さんは変だよ。今までだと宮尾さんはいつも自分以外のいろんな人の問題を取り上げて、いろいろ考えられて後押しするようなお話をしていたのだが、今日はさっきから自分のことばかり話をしていて聞いているとすごく自分勝手な主張に聞こえますね」

そうって市長は、私がまとめると大体次のような意味のことを言われました。

「現在船橋市の人口はおよそ62万人です。私はその62万人全員の幸せを考えなければいけない立場にある。しかもその62万人は全員が別の存在です。だから62万通りの考え方と意見がある。私はその全部の意見、全部の考え方を尊重しなければならない。

宮尾さんの話はその点、不幸で貧しい人と豊かで幸福な人とがいて、政治や行政はその中の貧しい人たちを助ければよいというような感じですが、それでは首長はやれない。私にとっては両方大事な市民なのです。だから貧しい人も豊かな人も同等に見なくてはいけない。宮尾さんの現状がいくら大変だからと言っても宮尾さんのことだけを考えてやるわけにはいかない。どんな豊かな人でもそれが市民である以上はその人のことも考えてやるのが行政のつとめなんです」

私は市長の話に虚を突かれました。私のような高齢で重度の障がい者や身寄りがいない孤独な老人などと、富裕層の贅沢三昧の生活をしている人たちとではすべてに差がある。行政がそれを考えるのは当然ではないか。ほとんど無意識的にそう思っていたのですが、それでは足りなかったのでしょうか。

現在私は83歳です。出生時障害により脳性麻痺になった私は、自力では歩くことができない障がい者になりました。学校に行くこともできず、働く機会も奪われて、社会にも出られなかった。今ではよぼよぼの障がい老人になり、妻もいますがいわゆる老々介護の状態です。

市長の松戸さんと対話した際、私が話したことにはそういうバックがありました。ですから、直接的な言い方は避けましたが、話の内容としてはそうしたバックが論理になっていたと思います。市長はそこを結果的にはたたいてきたので、私は立ち往生してしまったのです。

83年間生きてきた私には、ずっと釈然としないものがありました。それは、みんなが健康な身体に恵まれている中で、なぜ自分だけが障害を負わされて生まれてきたのかということです。

「世の中は平等ではないよ」という人もいますが、その平等でないところを少なくするのが、たとえば政治ではないのか。そう思って長い間生きてきたのですが、松戸市長さんは違う考え方だったのでしょうか？

自己紹介

佐々木義次

昨年11月からスタッフとして入所しました佐々木義次と申します。船橋市金杉台在住の57歳独身（×1）です。趣味は、バスケットボール、サッカー、スキー、スキューバダイビング、旅行、映画鑑賞等です。子供が小中学校の時は、子供会・PTA・生涯学習・市民族芸能連絡協議会等の地域おこしのイベントに積極的に参画しました。お客様より主催する側に楽しさを感じました。仕事では、業務内容の改善や、効率化を考えることが得意です。特に、エクセルを活用して、業務をマニュアル化・標準化することで効率化したり、表やグラフにして情報を共有することにより業務進捗の“見える化”を推進してきました。営業で培って来たコミュニケーションスキルにも自信があります。初対面で、相手がどのようなタイプであっても積極的に話し掛け、結果的に良好な関係を築くことができました。私は、聴覚障害者（6級）ですが、人と接することが好きで、もっと多くの利用者様を笑顔にできればと思います。



自己紹介 - 反映

楠本直美



私は母親からの遺伝で生まれつき障害を持っていました。幼いとき母親は出産をして体調を崩して、実家に帰ってしまいました。私は母親を知らず育ちました。9歳のとき父の再婚で継母となる方に教育されました。障害を持ち、人に世話になるということは、とても大変なことだと思いました。不理解と偏見の中、コミュニケーションや人との距離感の取り方がわからず、戸惑うこともありました。決しておおらかに育てるとは言えない親の元で過ごすことに私は絶望感を抱くこともよくありました。おかげで私は、独立心は人一倍あります。20歳のときに家をやっと出られて社会に出て働いたときは本当にうれしかったです。社会に出て私は大きく成長できました。つらいことや明日の食べ物に困ることもありました。でもその経験が自分の成長につながりました。そして、今まで守られてきたことに感謝しています。

皆さんこれからもよろしくお願いします。

フィールドトリップ

アンデルセン公園に 行ってきました



2016年12月15日、寒風吹きすさぶ中、フィールドトリップの一環として、ふなばしアンデルセン公園に行ってきました。参加人数は多くありませんでしたが、皆それぞれ楽しんでいただようでした。以下に参加者の感想文をお届けします。

フィールドトリップに参加して

楠本直美

2016年12月15日に待ちに待ったアンデルセン公園に皆さんと一緒に行きました！ポスターを作り、配ったりして準備もさせていただき、当日に冬のチューリップを見るのを楽しみにしていました。地図を見ながら探索するのですが、広大な敷地の中、迷子になるかと思いました。チューリップは咲き初めでしたが、珍しい色や形の品種がたくさんありました。家の周りにきれいに咲いていました。

デンマークのアンデルセンの世界に足を踏み込み、幼いころ読んだ童話を思い出し、懐かしく思いました。そして子供美術館でキャンドルも作らせていただき、とても寒い一日でしたがリフレッシュできた一日でもありました。ありがとうございました。

フィールドトリップ

兼信治美

アンデルセン公園へ何年ぶりに行ったか、物凄く久しぶりに行きました。数年前は、子供のボランティア活動で、行ったのですが、ゆっくり、見ることはできませんでした。今回は、ゆっくり、見ることができました。

だいぶ園内が変わって見えました。気分的にも違うので、とても新鮮な感じでした。冬に咲くチューリップ観賞もできましたし、キャンドルを作ったことも、皆さんで参加できたことも、とても良かったと思います。天気も良かったのですが、風が冷たかったですね。

アンデルセン公園は春頃も良い時期ではないかと思いますが、今回は、今回で、良かったと思います。

参加人数は少なめでした。暖かいともっと参加される方も多かったかもしれませんね。

指導員として、皆さんが楽しんで頂けたか、また、意見などがあつたら、反省点として今後の活動がより良いものになるようにしたいと思っております。

フィールドトリップ感想

佐々木義次

アンデルセン公園は、開所以来2回目の来所でした。花もきれいで目の保養になり有意義でした。また、ご一緒させて頂いた利用者様ともコミュニケーションできたことも良かったと思います。

フィールドトリップの感想

風間順三 飯泉孝雄 飯泉弥生 小股龍一

- ・冬に咲くチューリップがとても珍しく綺麗だった
- ・3年ぶりに行って寒かったけど花いっぱいであげて気持ち良かった。
- ・作品作りが楽しかった。
- ・寒くてソフトクリームが食べられなかった。
- ・みんなと食事がしたかった。



フィールドトリップに参加して

佐々木玲由

フィールドトリップに参加をし、初めてアンデルセン公園を寒空の中、楽しむことができました。公園内に入ると、まだ咲いてもないが少し色のついたチューリップやお花たちがお出迎えしていました。そのチューリップや花たちを前にカメラで写真撮影。ほかに、建物や風車を撮影していました。

皆さんと会話をしたりしながらゆっくりとした時間が流れていき、午後になりキャンドル作りも体験しました。その日は有意義な時間が流れていき、一日を楽しく過ごすことができました。

作業所の、佐々木要子です。

今日は、楽しかったです。ありがとうございました。



特に、チャペルの前で写真を撮ったのとキャンドル作り。キャンドルは、自分の思ったのと全然違ったけど、物を作るということが楽しかった。片手の私ができる、嬉しかったです。

でも、私は歩くのが遅いからその点は皆様にご迷惑をお掛けして申し訳なく思っています。

今回、連れて行ってくれてありがとうございました。

きっちゃんの源泉たれ流し

おいらとパソコンの因果なつきあい しょの3

★ IBM PS55

80年代の終わり頃、仕事をもらっていた翻訳会社からパソコンのオペレーターの仕事に依頼され、リースという形でおいらの自宅に初めて本格的なパソコンが導入された。機種はIBMのPS55(モデルナンバーは忘れたが)だった。日本IBMの製品ではなくアメリカからの輸入品で、日本オフィスシステム(NOS)という代理店が取り扱っていた。セットアップはNOSの営業の人がうちに来てやってくれたのだが、その人自身も途中何度も会社のSEの人に電話して、しかも1日では終わらず、2日ばかりでやっと初期設定を終える始末だった。その間ちっちゃなモニター(せいぜい13インチぐらいだったかな?)に表示されるのはわけの分からない英語だけであって、大変だなー、難しいもんだなー、なんだかなー、という印象を受けた。周辺機器としてスキャナーとでっかいプリンターもいっしょに入ってきて、おいらの6畳の狭い部屋がさらに狭くなった。インストールしてくれたのはOSとしてIBMのPC-DOSとWindows、ソフトはDOS版のWordPerfectというワープロソフト、そしてWindows上で動くTextReaderというIBMのOCR(光学式文字読取)ソフトだった。もちろん全部英語版だ。Windowsといっても現在のWindowsからはほど遠いもので、バージョンは2.いくつか、単なるDOSのシェルといったほうがらさわしいような味気ないものだった。おいら自身もその頃はWindowsってなんなのか、ぜんぜん分からず、ただ教わった通りに操作していただけだ。

セットアップが終わった翌日、翻訳会社からの指示で五反田にあったNOSの事業所に行ってWordPerfectの講習を受けた。たしか朝10時頃から夕方6時頃までやったように思う。おいらの他に4、5人の社会人の受講生がいた。あまりよく分からないまま講習を終えて、3、4日後にはもうこのWordPerfectを使った仕事を発注された。悲鳴を挙げそうだったが、そんな甘いことは言ってもらえない。四苦八苦しつつなんとか納品したことを覚えている。その後、英文のクリーンタイプや作表、ページレイアウトなどの仕事を大量に受注し、こなし、カルテを作ったこともあった。もちろん英語でだ。WordPerfectと小さなディスプレイではものすごくやりにくく、ストレスがたまったが。

PS55の操作については、通常は電源スイッチを押して4、5秒くらいあとにピープ音がピッと鳴って真っ暗な画面の下部にDOSプロンプトが表示され入力待ちになる。そこにキーボードから「wp5」と入力しEnterキーを押してワープロを起動する。OCRを使うときは最初に「win /r」と入力してWindowsを起動してから矢印キーでTextReaderの実行ファイルのところまでたどっていったらEnterキーを押して実行、という手順だった。マウスはついてなかった。そんなわけでこのパソコンにはまったく興味が湧かなかった。というか興味を持てるような代物ではなかったのだ。

その後、一時的にIBMの5550(ゴーゴーマル)という機種も会社からの指示で使ったことがある。WordStarというワープロがインストールされていた。PS55は本体横置きデスクトップタイプでFDDも3.5インチだったが、5550はかなりごっついタワー型の筐体で、FDDも5インチ、ペラペラで扱いにくいものだった。

ちなみにDOS/V(ドスヴィ)が発表されるのは90年の秋頃。テレビのニュース番組「ニュースステーション」で取り上げられ、久米宏がDOS/Vの仕組みなどについて解説していたのを覚えている。DOS/V版MS-Windows3.1が発表されるのはさらにその3年後のことだった。

WAVE のうごき

10月

- 4日(火) 職員会議
6日(木) 自立支援協議会・地域移行、
福祉サービス部会
22日(土) 船橋市障害福祉団体連絡協議会
27日(木) 自立支援協議会

11月

- 7日(月) FAS-NET 拡大制度政策委員会
22日(火) 認定審査会

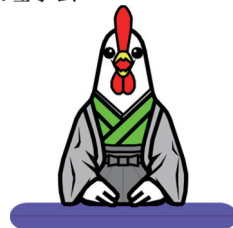
12月

- 15日(木) フィールドトリップ

1月

- 5日(木) 国保連請求
11日(水) 高橋克郎様モニタリング
11日(水) パソコン回収日
12日(木) Hana ヘルパーステーション訪問
13日(金) 職員会議

- 16日(月) 障害福祉サービス集団指導
17日(火) 夢工房訪問
17日(火) 山口様来訪
18日(水) 杉井入浴
19日(木) 大坂様 WAVE 来訪
19日(木) 愛澤様来訪
21日(土) 障害福祉団体連絡協議会
23日(月) 4:00 船崎様来訪
24日(火) 認定審査会
26日(木) fas-net 拡大政策委員会
28日(土) 法人理事会



会費納入のお願い

今年度の会費をまだお支払いいただけていない方、同封の振込用紙をご利用の上、お早めにご納入下さいますようお願いいたします。

年会費は、正会員が3,000円、賛助会員が5,000円、団体が10,000円となっております。

同封の振替用紙について

この機関紙には全員の方に郵便振替用紙を同封させていただきました。これは会費、介助料、カンパなどを送っていただく際に、便利なように同封したものです。

なお、納入状況など、ご不明な点は事務局までお問い合わせください。

編集後記

今回のフィールドトリップはアンデルセン公園でしたが、アンデルセン公園になってからは行ったことがなくて、その前身の「わんぱく王国」の時代に行った記憶が少しあるくらいなので、とても新鮮でした。FILとして、フィールドトリップ事業に対する思いはあるのですが、それはそれとして、楽しんでもらえて良かったと思います。ただ、屋外ということと季節が冬だったので、皆様、体調をくずさないかが心配でしたね。これからは、そういった事柄も考慮しようと思いました。あとは、もう少し交流ができたらと思います。さて、今回はバス旅行です。楽しみにしててください！！

FIL 職員

カンパのお礼

前号以降、以下の皆様より温かいカンパをいただきました。

厚くお礼申し上げます。(順不同)

伊藤光子様 田尾幸三様
福元高明様

発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17
ヴェルドゥーラ祖師谷102号室
障害者団体定期刊行物協会
頒価 100円

『障害者差別解消法』って、知っていますか？

- ・テーマ：障害者差別解消法
- ・目的：昨年始まっていて、その法律について勉強、考える場とします。

- ・日時：2017年3月4日 13:00～17:00
- ・参加費：無料 どなたでも歓迎 予約不要
- ・会場：船橋ツインビル(千葉県船橋市本町7-7-1)
西館 6階 Rental会議室
- ・アクセス①：JR総武線「船橋駅」中央改札口、東武野田線「船橋駅」の改札口を降りて左に進み斜め右に見える船橋ツインビル(イトーヨーカドー船橋店入居)まで歩いて3分。

講師

白井誠一郎(社会福祉士・難病当事者)

主催：船橋障害者自立生活センター
〒273-0005 千葉県船橋市本町2-4-4 花島ビル1F
連絡先：TEL 047-432-4554/FAX 047-432-4565
[Mailto:cil-funabashi@cil-funabashi.org](mailto:cil-funabashi@cil-funabashi.org)
<http://www.cil-funabashi.org>

ツインビル講演会申込書

名前	
連絡先	
所属団体	

早春 フィールドトリップ 南房総バス旅行

*いちご狩り 30分 **食べ放題** *枇杷の葉染め体験 *渚の博物館見学

***新鮮魚**料理ランチ *南房総の **お土産** お買い物

早春のバスの旅、いちご狩り、枇杷染め体験、普段とは少し違った時間を過ごし、心豊かに、コミュニケーションの向上を図りましょう。また与えられた時間や材料の中で個々の創意工夫によって、体験や工作活動、景色などに楽しみを見出す努力の大切さを学びましょう。

いちご狩り



渚の博物館



新鮮魚料理



日時 2017年3月17日(金)

申込締切日：2017年2月28日(火)まで厳守(申し込み後のキャンセルはお控えください。)

★集合場所・時間：**船橋市役所前 8時15分**

★基本料金：**3,000円**

Aコース(いちご狩り体験) 基本料金+1,300円

Bコース(びわの葉染め体験) 基本料金+1,000円

※行う体験によって料金が変わりますので、どちらかお選びください。

※障害者手帳をお持ちの方は必ず持参してください。

船橋障害者自立生活センター

〒273-0005 千葉県船橋市本町2-4-4
花島ビル1F

予約・お問い合わせ

047-432-4554

E-mail: cil-funabashi@cil-funabashi.org

参加ご希望の方は裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上2月28日までにお申し込みください。なお、ご家族やお友達と一緒に参加される場合、お一人様一枚の申込用紙が必要になりますので、その場合はコピーしてお使いください。

南房総バス旅行参加申込用紙

氏名		性別	男性・女性
住所			
(携帯)電話番号			
障害	有・無	障害者手帳	有・無
補装具	使用・不使用	補装具の詳細	
アレルギー	有・無	アレルギーの詳細	
介助者または付添人	有・無	人数	人
希望の体験コース	Aコース・Bコース		
その他の 必要事項等			

タイムテーブル

8:25 ~	船橋市役所集合
8:40 ~	花輪 IC 通過
9:40 ~ 10:00	HWオアシス富楽里（休憩+おみやげ屋立ち寄り）
10:20 ~ 11:35	道の駅とみうら 枇杷倶楽部（休憩+イチゴ狩り or ジヤムジヤム作りなどの体験）
11:50 ~ 12:15	渚の駅たてやま（小さな水族館・さかなクンギャラリーなどの見学）
12:30 ~ 13:30	漁師料理たてやま（食事・おみやげ屋）
13:45 ~ 14:15	道の駅おおつの里（花摘み・花の見学など）
14:20 ~	富浦 IC 通過
14:50 ~	木更津 JCT 通過（東京湾アクラライン連絡道へ）
15:05 ~	15:30 海ほたる見学
~ 17:00	船橋市役所到着解散

★注意事項

申し込み後のキャンセルは、行き先の予約等に影響しますので、やむを得ない理由以外は
ご遠慮ください。

申込先

船橋障害者自立生活センター事務局（担当：杉井・小松）

TEL：047-432-4554 FAX：047-432-4565

ホームページ：<http://www.cil-funabashi.org/>

E-mail：cil-funabashi@cil-funabashi.org